

物的環境に関連するインシデント・アクシデント事例

事例番号758

発生場所	トイレ、外来待合室、救急外来	精神・意識障害の有無	無	リスク B. 物の性能のリスク C. 不適切な環境設定・維持管理不足によるリスク
発生場所（その他）		発生内容の分類	閉じ込め	
関連したもの	便器、ドア			

発生内容 外来トイレでの患者閉じ込め事例を通じた安全対策（調査検討・改修・啓発）

概要 夜勤帯にウォークインにて救急受診された患者。受付後、気分不良となり自身で救急入り口前のトイレへ移動。その後、トイレ内から大声がして、心配した妻がトイレのドア（内開き）を開けようとしたところ、中で倒れていた患者の体が障害物となり、ドアが開かなかった。駆けつけた職員にて対応するもドアが開かないため、ドア（木製）の中央部を、機材を用いて破壊し侵入、救命処置を行なった。

要因 当該トイレ内の構造

- ・空間： 便器とドアの間隔が狭い（座ったまま開くドアを交わすことができない）
- ・ドア： 内開き式・取り外し不可・木製・蝶番はトイレ内に位置している

※様態急変時、倒れた体がドア開排の障害物となり、外から侵入できなくなる位置関係

対策 建築業者も含めた調査検討

対策 1. 問題解決策) 当該トイレの用途およびドアの形状について


①用途の明示： 職員用トイレとする（ドア中央部に表示を設ける）（理由）トイレ内のスペースが狭く、様態が変動する患者用としては不向きであるため（患者用身障者トイレは別途正面にあり、そちらへ誘導）

②ドアの改良： 条件付内開き（※有事の際はジョイントを取り外すと外開きになる）（理由）エレベーター前に位置するため、外開き式やスライド式ドアは適さない。大規模な工事を必要としないため、工期も短くコスト面でも有用である


2. 再発防止策) 全館トイレにおける構造および対処方法の調査、職員への啓発

- ・調査) 全館トイレのドアの構造・鍵のタイプ・有事の際の対処方法
- ・啓発) 有事の際の各トイレに応じた対応方法の発信・啓発

参照



トイレ内で様態急変時に、倒れた体がドア開排の障害物となり、外から侵入できなくなる。



有事の際には、ジョイントを取り外すことにより、外開きドアとなり、外からのアプローチが可能となった。ドアの改修工事も、現行の枠組構造を活かすことができるため大規模な工事とならず、工期も短くコスト面でも有用であった。